

平成二十五年 度 中 学 校

国 語

(一 回)

〈 注 意 〉

- 一、監督^{かんとく}の先生の指示があるまで、中を開けないでください。
- 二、最初に受験番号と氏名を解答用紙の指定欄^{らん}に記入してください。
- 三、字数指定がある問いでは、句読点・記号なども一字として数えます。
- 四、解答はすべて解答用紙の指定欄に記入してください。
- 五、下敷き・色鉛筆^{えんぴつ}を使用することはできません。
- 六、問題は14ページまで印刷されています。
- 七、試験の「開始」・「終了」は監督の先生の指示に従ってください。
- 八、問題用紙は持ち帰ってもかまいません。

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数指定がある問いでは、句読点・記号なども一字として数えます。)

アフリカ東部のケニアに住むマサイの人々は、今でも、「マニアッタ」という牛のフンで固めた伝統的な家に住んでいます。先進国と呼ばれる日本に住むぼくらは、アフリカで昔ながらの生活をしている人々のことを、経済的に発展していないからそんな暮らししかできない、と決めつけがちです。でも、平日はケニアの首都ナイロビの会社にスーツ姿で勤め、週末だけは伝統的な一枚布の衣装いしやうを身にとって伝統的な暮らしをするという、二重生活①を送っている人も少なくありません。なかには、伝統的な生活を観光客に見せてお金を稼かせいでいる人もいますが、純粋じゆんすいにその暮らしを楽しんでいる人たちも大勢いるのです。

アフリカ南部に住むブッシュマンは、狩猟採集生活しゆりようを続けていましたが、一九八〇年代に彼らかれが暮らしていた土地が国立公園に指定され、そこから締め出しだされてしまい、以降、定住生活を余儀なくされました。

定住生活には、狩猟採集民のトラブルの最終解決策である、土地を「離れる」ことができないという短所②があります。さらに、定住生活では、みんなで協力してとってきた食糧しよくりやうをみんなで分けあう暮らしから、お店に行き、個人で食べ物を買う暮らしに変わります。食べ物を買うにはお金がいりますから、お金をどれだけ持っているかで、持てる者と持たざる者という格差ができてしまいます。

③ 定住生活に移行した人の中には、こうした生活になれることができず、精神的にまいってしまいう人も出てきます。そこで、狩猟採集で生活していけるだけの豊かな自然はもう残っていないにもかかわらず、以前の狩猟採集の暮らしにあえて戻もどる

人たちもあらわれました。

アフリカの人々は、一八八〇年代からはじまった植民地化以降、西洋諸国から伝統や文化を否定され、西洋風のライフスタイルを強制され続けてきました。その結果、アフリカの学校では、西洋の言葉と西洋人が作った教科書が使われ、現地の人たちが自分たちの言葉で自分たちのことを語る教材は、ほとんどないのが現状です。

*2

④ ぼくは、エコ・ツーリズムを確立することで、大きな混乱の中にあるアフリカの自然や文化の現状をくつがえし、次世代の教育にも生かせるようにしたい、と考えています。

今まで、アフリカの熱帯雨林で展開されてきたエコ・ツーリズムは、欧米の専門家による指導のもと、地元の経済を活性化させることを主な目的としてきました。地元の科学者や住民がその主体となることは、きわめてまれだったのです。

そもそも地元の人々は、自分たちの近くに棲む野生動物をあまり知りません。そこでぼくたちは、まずゴリラや野生動物たちの生態調査を地元の研究者や学生、それに地域の人々と協力して行うことをはじめました。調査を通じてまず人々が自然の仕組みを理解し、どうやって共存していけば明るい未来が開けるかをいっしょに考えようとしたのです。

⑥

そのうえで、地元の自然や文化を語るエコ・ツーリズムのガイドとして地元の人々を雇用しようという計画を立てています。⑦ ゴリラを保護してエコ・ツアーの観光客を呼ぶことに成功すれば、長期間にわたる収入源になると同時に、自分たちの自然や文化、伝統への誇りを取りもどすことにもなるからです。ガイドブックや教材の作成もなるべく地元の人々の参加を得て、将来の世代に利用してもらいたいと考えています。一九九二年からザイールのカフジ山ではじめてこの

活動は、NGO「ボレボレ基金」として現在も続いています。

エコ・ツーリズムは、現在ぼくたちが預かっている自然や文化は次世代への遺産であるという考え方に基づいています。その遺産の価値を、世界の人々が協力して高め、将来の世代に伝えようというのが、ぼくらの夢なのです。

「自然保護」という言葉をよく聞きますが、なぜ人間にとって、自然が大事なのでしょう。温暖化現象を防ぐため、生物多様性を保って自然界のバランスを崩さないためなど、理由はいくつも挙げられるでしょう。

ぼくはこう考えています。人間にとって自然が必要な理由は、人間には自然からしか学べないことがたくさんあるからだ、と。

A、都会のビルの谷間を歩いているときに、突然ゾウが走ってきたり、ワシやタカが舞い降りてきたりすることはありません。頭上から熟れた果実がぼたぼた落ちてくることもないでしょう。もしこんなことが街中で起これば、それは大アクシデントです。

B、自然の中では、向こうから何がやってくるか、空から何が落ちてくるか、はたまた地面に何があるかもわかりません。予想できないことだらけです。

C、自然の中に身を置くのと、街の中に身を置くのとでは、人間の「構え」がおのずと変わってくるはずなのです。

次々と起こる予想もしないことにひとつひとつ対処をしながら生きていく、という構えを持つのか。それとも、想定内の

ところで安全かつ自分の思いどおりに生きていく、という構えなのか……。

⑨ 今は、自分が思ったとおりにできないことがあると、すぐにイライラしたり、「失敗した」と思って、ひとつの出来事をとても重くとらえてしまったりする人が多いように見えます。

人に対しても同じです。相手と話がうまくかみあわなかったり、自分の意見に賛同してくれなかったり、自分の期待どおりに動いてくれなかったりするときに、「嫌われてるんじゃないか」とか、「裏切られた^a」とか、果ては「相手がおかしいんじゃないか」とまで思って傷ついてしまうことはありませんか。

でも、本当はそうではないはずです。相手と自分とはちがうのですから、思っていることもちがって当然です。また、相手の反応も数あるうちのひとつであって、絶対的なものではありません。相手と自分との間に、ある種の「遊び^ま」や「間^ま」があつて、さらに少し「ズレ」があると気づくことが大事なのです。そして「ズレ」を認められれば、ちがう考えを持った相手とも、いっしょに歩いていけるはずです。⑩ ようは、「構え」しだいということです。

「ア」

そういうふうに見ていかないと、今生きている世界が、ガチガチに固められた^c、きゅうくつで息苦しいものになってしまふような気がしませんか。

「イ」

自然の中に身を置いていると、そのことが体でわかります。たぶん、ジャングルの中に放りこまれたら^d、すぐに実感し

ますよ。思いどおりにいくことのほうがよっぽど少ない、と。

「ウ」

でも、「思いどおりにいかない＝失敗」ではなくて、どうしたらいいかを考えるチャンスと考えればいいのです。思いどおりにならないことに出会った瞬間^{しゆんかん}が、じつは、ものごとはじまりであつて、前に進むための扉^{とびら}を開けるきっかけなのです。

「エ」

みなさんは、親があれこれ口を出してくるのを、^⑪ うつとしく感じたことはありませんか？ あるいは、耳の痛いことをいつてくる友だちに「放っておいてよ」と思うことがあるかもしれません。

なぜこんな「おせっかい」をやくのかというと、人間は信頼^{しんらい}に固執^{こしつ}するからです。信頼しているからこそ、相手の考えていることや感じていることに共感したいのです。信頼していない相手と共感したいとは思わないですよ？ それは、人間が信頼できる関係が築ける大ききの集団を作り、その中で共感を育てていったことを見ても、はっきりしています。

ところが、最近は少し事情が変わってきました。大家族のしがらみや、共同体の人間がおせっかいを嫌って、自由を追求した結果、信頼も共感も薄まった^{うす}社会、おたがいに頼りあうのが難しい、孤独な集団を作ってしまった。

では、信頼や共感を土台にした、おせっかいを焼きあう社会に戻ったほうがいいのかというと、これもまた^⑫ 過ぎると、やっかいなことになる可能性があります。

たとえば、だれかと「おいしいね」といいあいながら食事をする、幸せな気分になります。一見共感しあっているように見えますが、味覚は共有できませんから、相手も自分と同じようにおいしいと思っているかどうかは、本当はわかりません。さらにいうと、だれかと何かを共感できる能力に自己満足している面も、少なからずあるのではないのでしょうか。

ですから、共感が過剰になると、暴力につながることもあるのです。「なんでわかってくれない？」と、共感を強要していることに気づかないまま、愛が憎しみに変わってしまうように。共感とは「諸刃の剣」でもあるのです。

どうやら共感や信頼が薄まった孤独な社会も、共感や信頼が濃すぎる社会も、どちらも生きづらそうです。いったい、どうすればいいのでしょうか。

ぼくは、「自然」本来のつきあい方にヒントがある、と考えています。

たとえば、ゴリラのフィールド・ワークをしていて、ぼくがピンチにおちいつても、ゴリラはぼくを助けてはくれません。そういう意味ではゴリラは冷たいといえるでしょう。

でも、つきあっていけばいくほど、そばにすることを許してくれたり、いっしょに遊んでくれたりすることもあります。

そういう意味では、とても懐が深いのです。

木の洞でぼくといっしょに雨宿りをしたタイタスは、家族が密猟者に襲われて、父親やたくさんの方を殺されました。母親や姉さんは別の集団へ移り、ほかの二頭のオスととり残されてしまいました。ようやく乳離れをしたばかり、四歳のときのことです。彼にとっては、人間はどうしたって許せない「敵」のはずです。ぼくらが逆の立場だったら、かならず

そう思うでしょう。

にもかかわらず、タイタスは「敵」であるはずの人間のぼくを信頼してくれて、無邪気で無防備な姿をさらしてくれたのです。ほかのゴリラも、仲間が人間に襲われても、敵に対するとは思えない態度で接してくれました。これを「覚えていないからだろう」といつてかたづけられる人もいますが、そんなことはありません。彼らは記憶力がとてもいいのです。

それでもなお受け入れてくれる懐の深さは、やっぱり、彼らの、あるいは自然の持っているしなやかな力強さゆえではないか、と思うのです。

こういう、冷たくて懐が深い、しなやかなつきあい方を出発点に定めて、人間の社会をどう作っていけばいいか、考えてみたらどうでしょうか。人間は、ある意味ではもっと冷たくてもいいけれど、同時に、他者をもっと受け入れる懐の深さがあってもいい。

「受け入れる」ということを、頭で考えると難しいかもしれませんが、ぼくたちのいちばん身近にある自然＝自分の体に聞いてみると、わかりやすいかもしれません。

人間の体には、もともとさまざまな能力が備わっています。自然の中で暮らすことをやめてしまった今、使われていない能力もたくさんありますが、完全に失ってしまったわけではありません。まずは、どんなものなら受け入れられるのか、自分の体に聞いてみる。そこからはじめればいいのです。

たとえば、ぼくらは、ケンカの罵声や、工事現場で機械がガチャガチャいう音はうるさいと感じますが、鳥のさえずり

や秋の夜長の虫の鳴き声、子どもたちが遊ぶ元気な声をうるさいとは思いません。そういうことは、頭で考える前に、自分の体を感じることです。

自分の体に聞いてみることを意識しだすと、今の社会が、人間が本来豊かだと感じる社会からずいぶん遠くはなれてしまっているということも、これからどんな社会を作っていくのかというヒントも、見つかるかもしれません。

それには、どうしても人間以外の動物がいないとダメなのです。やっぱり人間を映し出す「鏡」が必要だというわけです。

ゴリラたちは、そのよき鏡になってくれると、ぼくは信じています。

(山極寿一『ゴリラは語る』による)

*1 余儀なく…やむをえないこと。強^しいられること。

*2 エコ・ツーリズム…地域ぐるみで自然環境^{かんきょう}や歴史文化など固有の魅力^{みりよく}を観光客に伝え、自然保護につなげていくことを目指す仕組み。

*3 罵声…口汚く^{くちぎたな}大声でののしる声。どなりたてる声。

問一、——線①「二重生活を送っている人も少なくありません」とありますが、「マサイの人々」が「二重生活を送っている」理由を、本文中の言葉を用いて二十字以内で答えなさい。

問二、——線②「短所」の類義語を答えなさい。

問三、——線③「こうした生活」と対照的な「生活」を本文中からぬき出して答えなさい。

問四、——線④「大きな混乱の中にあるアフリカの自然や文化の現状」とありますが、「アフリカの自然」の「現状」について具体的に述べている部分を、本文中からぬき出して答えなさい。

問五、——線⑤「次世代の教育にも生かせるようにしたい」とありますが、「次世代の教育」のために筆者が行おうとしたことの内容としてふさわしくないものを、次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

(ア) 野生動物の生態調査を地元の人々と協力して行い、野生動物と共存できる方法を考えようとした。

(イ) ガイドブックや教材の作成にあたって、経済を活性化させるため地元の人々に参加してもらおうとした。

(ウ) 地元の研究者と協力して行った生態調査により、地元の人々が自然の仕組みを理解できるようにした。

(エ) ゴリラを保護してエコ・ツアーの観光客を呼び、専門のガイドとして地元の人々を雇用しようとした。

問六、——線⑥「立てています」の主語を答えなさい。

問七、——線⑦「自分たちの自然や文化、伝統への誇りを取りもどす」とありますが、この部分と対照的な一文を本文中からぬき出し、最初の七字を答えなさい。

問八、A } C にあてはまる言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|------------|------|--------|
| (ア) A たとえば | B また | C なぜなら |
| (イ) A ところで | B でも | C なぜなら |
| (ウ) A たとえば | B でも | C だから |
| (エ) A ところで | B また | C だから |

問九、——線⑧「こんなこと」とは、どんなことですか。簡潔に表現されている部分を、本文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

問十、——線⑨「自分が思ったとおりにできないことがある」とありますが、筆者は「自分が思ったとおりにできない」場合、どのようにすればよいと述べていますか。本文中から二十五字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問十一、——線 a「れ」・b「られれ」・c「られ」・d「れ」の中で、違^{ちが}うはたらきをしているものを一つ選び、記号で答えなさい。

問十二、——線⑩「ようは」とありますが、「よう」を漢字に直した場合、正しいものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 要 (イ) 用 (ウ) 様 (エ) 容

問十三、——線⑪「うつとうしく」とありますが、『うつとうし』の「こ」の意味を、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 陰^{いん}気で気分がよくない。 (イ) 邪^{じゃ}魔でわずらわしい。
- (ウ) 気持ちが重苦しい。 (エ) 晴れやかではない。

問十四、⑫ にあてはまる言葉を漢字一字で答えなさい。

問十五、——線⑬「やつかいなこと」とはどのようなことですか。具体的に述べている部分を、本文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

問十六、——線⑭「どうすればいいのでしょうか」とありますが、これに対する筆者の考えが示されている一文を、本文中からぬき出し、最初の七字を答えなさい。

問十七、——線⑮「敵に対すとは思えない態度」を具体的に説明している部分を、本文中から三十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問十八、——線⑯「そんなこと」とは、どんなことですか。本文中の言葉を用いて答えなさい。

問十九、——線⑰「人間は、ある意味ではもつと冷たくてもいい」とありますが、筆者はどのような社会に対して「もつと冷たくてもいい」と述べていますか。本文中から二カ所ぬき出して答えなさい。

問二十、——線⑱「人間を映し出す『鏡』とありますが、この場合、どのようなものをたとえていますか。次の(ア)～(エ)の中から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

(ア) なぜ自然が大事なのかを教えてください的存在。 (イ) 人間がどんな社会を作るべきかというヒント。

(ウ) 人間が本来あるべき姿を示してくれる手本。 (エ) 文明社会でのありのままの姿を映し出す装置。

問二十一、次の一文は本文中の「ア」～「エ」のどこに入れるのが適切ですか。記号で答えなさい。

【人間にとって自然が必要なのは、こんなふうに、しなやかな構えを肌で感じ、生きる知恵として自分のものにしていくためなのではないでしょうか。】

二、次の問いに答えなさい。

問一、次の①～③の漢字の部首をぬき出し、その部首名を次の(ア)～(カ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① 然 ② 郷 ③ 脳

(ア) いぬ

(イ) つきへん

(ウ) れんが

(エ) おおざと

(オ) にくづき

(カ) こざとへん

問二、次の①・②の漢字の総画数を、それぞれ算用数字で答えなさい。

① 過 ② 難

三、次の①～⑤の文には言葉の使い方に間違いがあります。間違っ使用されている漢字一字をぬき出し、正しい漢字に直しなさい。

① もうしなひと言った舌の先もかわかないうちに、けんかを始めた。

② あの人の話は間に受けない方がよい。

③ 弟は受験勉強によりやく肩を入れるようになった。

④ あなたは何にでも顔をつつこみ過ぎだ。

⑤ 私には都会の土は合わなかった。

四、次の①～⑩の――線をつけたカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

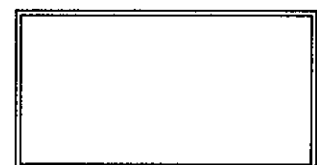
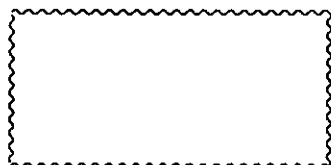
- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ① みんなの意見をカミして、案を練り直す。 | ② ユウキ農業を推進する。 |
| ③ 化学ヒリョウを使わない作物を買う。 | ④ こんなに安くしては、サイサンがとれない。 |
| ⑤ ツウカイな歴史小説を読む。 | ⑥ このカバンは牛から作られたヒカク製品だ。 |
| ⑦ 家が学校に近く、コウツゴウだ。 | ⑧ 二十年前とは時世が違ふ。 |
| ⑨ 食事の作法を習う。 | ⑩ 生半可な知識では役に立たない。 |

総
点

成
二
十
五
年
度

中
学
校

国
語
解
答
用
紙
(
一
回
)



四、
三、
二、
一、

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九	問十	問十一	問十二	問十三	問十四	問十五	問十六	問十七	問十八	問十九	問二十	問二十一	問二十二
①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
部首名	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首	部首
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨
⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩
⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪
⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫
⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬
⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭
⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮
⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯
⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰
⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱
⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲
⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶

受験番号
氏名